

## 花粉症について

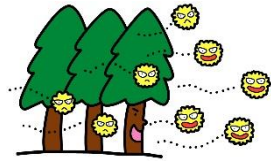
花粉症とは、植物の花粉が原因となるアレルギー性鼻炎で、その代表がスギ花粉症です。毎年、春が近づき暖くなる頃に、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目の痒みなどを生じ、睡眠不足に陥ったり、昼間の集中力低下によって作業効率が落ちたりと日常生活に大きな支障をきたす疾患です。日本人のおよそ3割が罹患しているといわれていますが、花粉の飛散量によって地域差があります。静岡県は罹患率が上位ですので、引越しを機に発症したという人も少なくありません。最近は小児など若年層での増加や低年齢化が注目されています。

まずは予防対策です。マスクの着用、眼鏡、すべすべした素材の衣服を身につけるといった工夫により少しでも体に付着する花粉の量を減らすことが重要です。風の強い晴れた日や雨の日の翌日は飛散量が多くなりますので、天候にも注意してください。県内での飛散情報は日本耳鼻咽喉科静岡地方部会ホームページ ([www.shizuoka-ijbika.jp](http://www.shizuoka-ijbika.jp)) で公開しています。

治療は主にアレルギー反応を抑える薬剤を使用します。市販でも手に入れることはできますが、症状のひどい時だけ服用しても有効ではありません。症状の発現を抑えるためには早目に、また一定期間継続することが大切です。重症度や症状によっても効果のある薬剤は異なりますので、一度は受診することをおすすめします。近年、アレルギー免疫療法として治療薬を舌の下に投与する舌下免疫療法が登場しました。

年単位での治療が必要ですが、自宅のできるため従来の方法と比べるとかなり簡便になりました。症状が軽症化したり、中には治癒に至る方もいます。

(文責：耳鼻いんこう科長 荒井 真木)



## 市民公開講座のご案内

当院では市民を対象とした市民公開講座を開催しており、毎回、多くの皆さまに参加をいただいています。

今回は「認知症」をテーマに平成29年6月24日(土)の14時00分～16時30分(13時15分開場)アクトシティ浜松コンgresセンター31会議室で開催します。

詳細は、今後、当院ホームページ等でご案内します。入場は無料・事前の予約等は不要ですので、直接会場へお越しください。(先着順：定員380名程度)



# ふれあい!

## 浜松医療センター広報誌

No.39(平成29年4月発行)



医療奨励賞は、医療の振興を図るため、医療の普及および向上に寄与した医師・歯科医師に対して授与する賞です。今回、当院の歯科口腔外科・感染症内科が地域医療への寄与が評価され、浜松市から医療奨励賞をいただきました。

## 目次

- ①新院長就任あいさつ
- ②院長退任あいさつ
- ③花粉症について
- ④市民公開講座のご案内

〒432-8580 浜松市中区富塚町328

TEL 053 (453) 7111

URL <http://www.hmedc.or.jp>

発行：浜松医療センター



～ ご自由にお持ちください ～

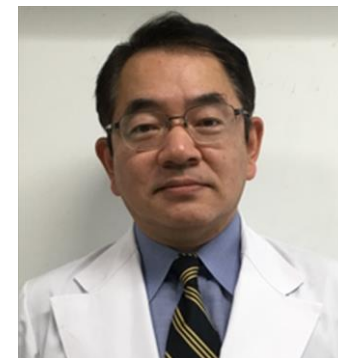
## 新院長就任あいさつ

安全・安心な、人々に信頼される病院を目指します。

この度、平成29年4月1日付で浜松医療センター院長を拝命いたしました「うんの なおき」と申します。皆さまに謹んでご挨拶を申し上げます。

私は静岡市で生まれ育ち、大学卒業後は30年近くの人生を浜松で歩んで参りました。とりわけ、米国留学から帰国後は浜松医科大学にて専門の血管外科を中心に臨床、研究、教育に従事して参りました。院長を拝命するにあたり、大変光栄であると同時に重責に耐えうるかどうかいささか不安な気持ちが正直なところです。

現在、日本の病院を取り巻く環境は大きく変化し「機能分化と医療連携の推進」「新専門医制度のスタート」そして「診療報酬の改定」と枚挙にいとまがありません。その中で、浜松医療センターは地域の中核病院として高度急性期医療、救急医療、周産期医療、がん医療、そして災害時の拠点病院としての任に当たらなければなりません。変化に柔軟に対応しつつ、一貫して安全・安心な、人々に信頼される病院であり続けなければならないと考えております。もちろん、この目標を達成するためには、地域の先生方との強固な連携を維持し、職員が一丸となって努力していかなければなりません。また本院が全国でも有数な高度機能病院として、多数の優秀な医師、看護師、医療人を輩出できることを願っています。もとより浅学非才の身ではありますが、皆さまのご期待に添いますよう精一杯努力してまいり所存です。何卒格別のご厚誼ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



海野 直樹

## 院長退任あいさつ

私はこの3月をもって院長を退任することになりました。9年前の3月に信州大学教授を辞して医療センターへやってまいりました。赴任当時の医療センターはかなり厳しい状況でしたが、全職員の強い団結のもと、何とか乗り切ることができ、現在まで発展してきました。多くの病院が危機に直面している中、大変ありがたいことです。

医療センターは、全国に類を見ない浜松市医師会とのオープンシステムでの協力体制が敷かれております。救命救急医療、小児・周産期医療、がん診療をはじめとする高度な医療を提供し、医療安全を強化することを基本に、患者にやさしい病院、最後の砦となる病院を目指して邁進してまいりました。市民の皆さまに対して公開講座も毎年2-3回継続開催しております。私が赴任した当時は免震工事の真っ最中で病院内も混迷していましたが「笑顔で挨拶、明るく、元気に」という合言葉のもと、病院内の様々な整備を行い、メディカルバースセンター「めばえ」、患者図書室「さなるの泉」、在宅連携センター「つむぎ」などを開設しました。病院理念は「安全・安心な、地域に信頼される病院」へ、病院名は浜松医療センターへと変更し、さらには公益財団法人への移行なども実現し、新病院建設への道筋をつけることができました。

私に代わって4月から新院長として浜松医科大学から海野直樹先生が赴任してまいりますが、私は名誉院長として非常勤ながら海野先生をバックアップする予定です。2025年問題を見据えた病床機能再編や様々な医療制度改革という荒波が押し寄せている中、5年後の夏には新病院がオープン予定ですので、これからも医療センターをどうぞ宜しく願い申し上げます。



小林 隆夫